

# 収蔵資料から

其の97 第11歌集『さびしき樹木』



発行日：大正7年7月23日  
発行所：南光書院  
収録歌数：200首

第11歌集『さびしき樹木』は、大正6年夏から秋にかけての歌が収録されています。東京巢鴨での歌、6月に妙義山へ出かけた歌、8月に秋田、新潟、長野を巡った歌が収められています。

本来なら、もっと早く出る予定でしたが、出版社の都合で遅れ、次の歌集『溪谷集』よりも後に発行されています。牧水の歌集中、もっとも歌数が少なく、大きさも縦15cm×横11cmと小さな歌集です。

自序には次のように書かれています。

「本集の歌は（略）ぼつぼつと二首か三首かずつできていたようである。いわばまず窓の蔭に小さくなりながらこの頃最も力を帯びてくる天の光や樹木の光を仰いで息をひそめて作っていたという形であろう。」

（参照『若山牧水全集』）

# 牧水歌碑めぐり

其の98 永井宿郷土館（群馬県）

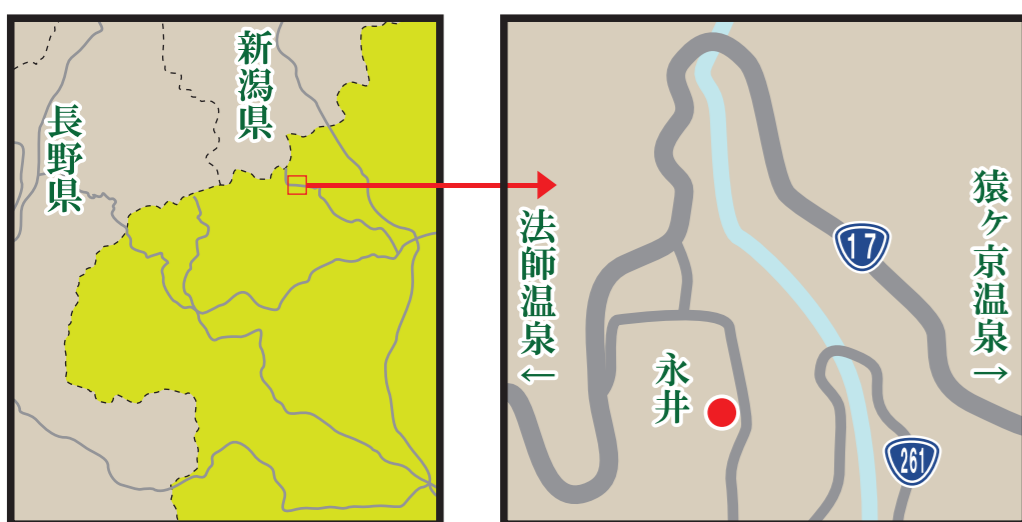


昭和54年建立

「山村所々のうち  
永井村  
山かげは  
日暮はやきに  
学校の  
まだ終らぬか  
本読む声す  
大正十一年十月十二日  
歌集『さびしき樹木』より

大正11年10月、牧水は長野、群馬各地を巡る旅に出かけます。22日、沼田から川沿いに法師温泉を目指します。猿ヶ京を過ぎて永井村にさしかかる頃、辺りはだいぶ暗くなっていたが、小学校はまだ授業中で子供たちの声が聞こえてきます。幼少期の情景と重なったのでしょうか、この旅で学校に関する歌を9首詠んでいます。

昭和54年、小学校は廃校となりますが、校舎は公民館となり、歌碑はその記念に建てられました。現在は、跡地に永井宿郷土館が開館しています。



（参照『若山牧水全国歌碑集』）

# 文学館だより

令和7年2月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高第106号

## 牧水母校作品展 はじまりました 見に来んね!

牧水母校3校の協力を得て、今年も牧水母校作品展を開催する運びとなりました。平成28年度坪谷小学校作品展からスタートしたこの企画、今年はお覧のように坪谷小学校から手づくり作品が届きました。早速先生方が足を運んでくださっています。お父さん、お母さん、じいちゃん、ばあちゃん、お近くの方、見に来ませんか。



牧水は明治29年、坪谷尋常小学校を卒業しました。

## 宮崎県立延岡高等学校 校内短歌大会入賞作品です。

初球からいくぞ一発フルスイングあの子が見てるの許して監督九(く)年間共に過ごした親友が教室の中になく寂しさ初めての電車に踏み込むその足に光るローファー希望をのせて悔しさで涙する夜に十五件あなたにはきくと超能力者恋すれば盲目になると人は云うなってもいいわ君さえ見れば滑走路恋のひこうき曲がらないただ君めがけて飛ぶはずだから汗ふきをくれよと争奪戦夏の恒例ケアせよ男子「来ぬ人を」札に触れない私の手青春(ぶかつ)が終わる畳の匂い捨てていけ不安と後悔迷いなど宇宙行くととき好きとき言うときあの頃はグラグラしてた日常もうまくいくんだ自転車のように

1年  
1年  
2年  
2年  
2年  
3年  
3年  
3年

牧水は明治37年、旧制延岡中学校を卒業しました。

## 早稲田大学 短歌会「わせたん」所属の作品です。

生サラダ!公道に放置されてる。トマトの断面、心拍ばくばく...犬派ではないことあなたに仄めかしてる ナックルボールの握りで投げる夕暮れの島にあなたの影を見る波を砕いて泣いてしまった

1年  
1年  
2年

牧水は明治41年、早稲田大学を卒業しました。

## 第12回高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式

1月19日(日)



入賞者のみなさん 一席 中山楓大さん(前列右)

郷土の詩人高森文夫を偲び、日向市内全小学校4~6年生を対象に実施している詩大会。今年はお最多を誇る696点の作品が寄せられました。

表彰式は高森文夫の生誕の日、1月20日前後の休日としており、1月19日(日)に行いました。一人一人表彰を行い、一席の日知屋東小学校6年中山楓大(ふうた)さんが受賞者を代表して入賞作品を暗唱しました。

講評の中、空手の練習について書いた松野咲菜(えま)さん(日知屋東小6年)が演武を披露するサプライズがあり、詩に描かれている鍛錬の様子をかいま見る場面もありました。毎日の暮らしの中にある感動をメモして言葉にしていこう、書きっぱなしに終わらず推敲を重ねていくことなどの講評をいただきました。来年、また感動の数々を待っています。審査結果及び入賞作品は当館ホームページに掲載していますので、どうぞご覧ください。(写真後列左 選者 二見順雄氏 後列右 日向若山牧水顕彰会会長 那須文美)

## 歌会始 延岡市高校生は牧水・短歌甲子園出場者

ペンだこにうすく墨汁染み込ませ掠れた夢といふ字を見てる 森山文結

1月22日(水)、新年恒例宮中行事「歌会始の儀」が行われ、延岡市在住の高校生、森山文結(ふゆ)さんの歌が披露されました。森山さんは昨年の第14回牧水・短歌甲子園に出場しており、伊藤一彦選若山牧水記念文学館長賞を受賞していることを申し添えます。

【若山牧水記念文学館長賞】

この恋が終われば死ぬと言いつ百物語みたいなあのご 森山文結

第14回牧水・短歌甲子園結果より 令和6年8月17日~18日開催

## みなさん、ご存じでしたか

みなさん、さだまさし作詞作曲の「あこがれ」という曲をご存じですか。グレース時代のアルバム『わすれもの』に収録されている曲です。

途中  
あこがれてゆく の ずっとこれからも  
心の鐘を ひとり 打ち鳴らしながら

と歌われています。そうです。牧水の、

けふもまた心の鉦をうち鳴し  
うち鳴しつつあくがれて行く

から歌詞が生まれているのです。

1月4日(土)仕事始めの日、来館されたお客さまに教えていただきました。そして後日、このCDほかを送られてきました。みなさん、ご存じでしたか。さださん、文学館に来てくださらないかなあ...

## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

けふもまたこころの鉦をうち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く  
きょうもまた こころのかねを うちならし うちならし つつ あくがれてゆく

「十首中国を巡りて」の詞書のある歌の冒頭歌。牧水が早稲田の四年生の夏休みの帰省の旅である。いつもの帰省は神戸から船で宮崎に向かったが、このときは中国地方を汽車と徒歩で楽しんだ。旅する心をうたったこの一首、眼目は「あくがれて行く」である。「あくがれ」の「あ」は「在」、「く」は「処」、「がれ」は「離れ」の意味で、心がいま在る処から彼方へむかっていく意。牧水は中学時代から「あくがれ」の語を愛し、使っている。古歌にも「あくがれ」の歌は少なくないが、牧水の場合は、意志的なそれゆえ近代的な「あくがれ」だ。(伊藤一彦『若山牧水の百首』より)

けふもまたこころの鉦をうち鳴し  
うち鳴しつつあくがれて行く

牧水

## 第29回若山牧水賞

賞の歴史を辿る貴重な資料を展示

会期 1月28日(火)~2月25日(土)  
会場 若山牧水記念文学館 企画展示室

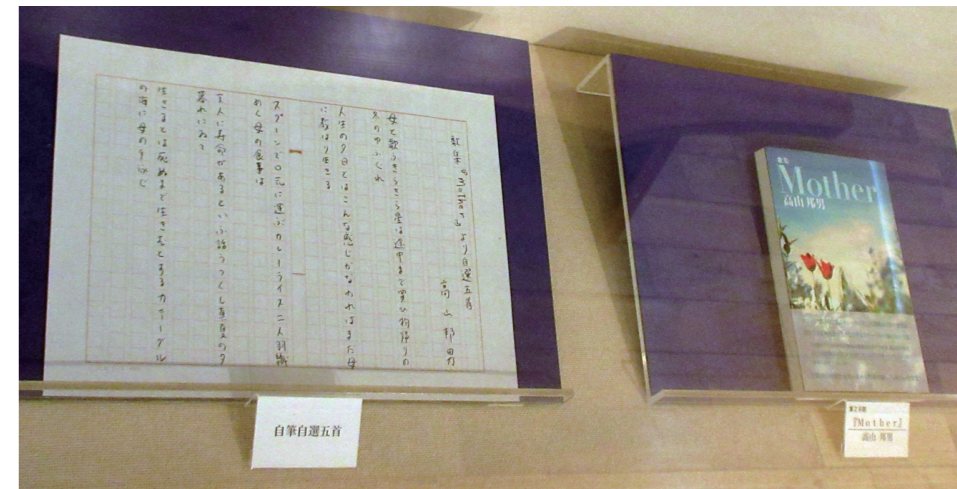
平成9年に設けられた若山牧水賞は、今年で29回を数え、のべ34名が受賞されています。第29回受賞者は大辻隆弘さん、高山邦男さんのお二人で、2名受賞は5年ぶりです。

文学館では今回の受賞者とともに歴代受賞者の歌集、自選五首の直筆原稿や色紙を展示しています。これらは当館でしか見られない大変貴重なものです。これまで来訪された受賞者の方々は、自身の展示を見て「この中に並ぶことになり、大変光栄に思う。」と感動されています。

期間は短いですが、圧巻の内容です。ぜひご覧ください。



第29回受賞者2名を中央ケースに、歴代受賞者を周囲に並べて紹介



高山邦男さんの自筆自選五首と受賞歌集

## 若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地

■利用案内■  
【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日~1月3日)  
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)  
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp

